

白ねぎ栽培マニュアル



<令和5年産 重点対策ポイント>

- ① 排水性の良いほ場の選定
- ② 8～11月の長期収穫作型に取り組み、気象災害・価格変動の危険性に備えた作付け体系の実践
- ③ 軟白長7～8月期は28cm、9～11月は30cmの確保
- ④ A品規格は病虫害がないきれいなものとする。
- ⑤ 農薬の使用については、使用基準が変わる可能性があるの
で、必ず薬の瓶・袋に記載のラベルを確認し、使用基準（品
目、使用回数等）の遵守をするとともに、栽培記録簿への記
帳。

令和5年4月

アルプス農協管内農業技術者協議会

1 定植前年秋の準備

(1) 圃場の選定

圃場の立地条件（圃場周囲の水稲作付の有無（隣接する水田からの漏水）、過去の用水等からの浸水の状況、日照条件、風当たり等）も考慮し、必ず排水性の良い、耕土の深いほ場を選ぶ。

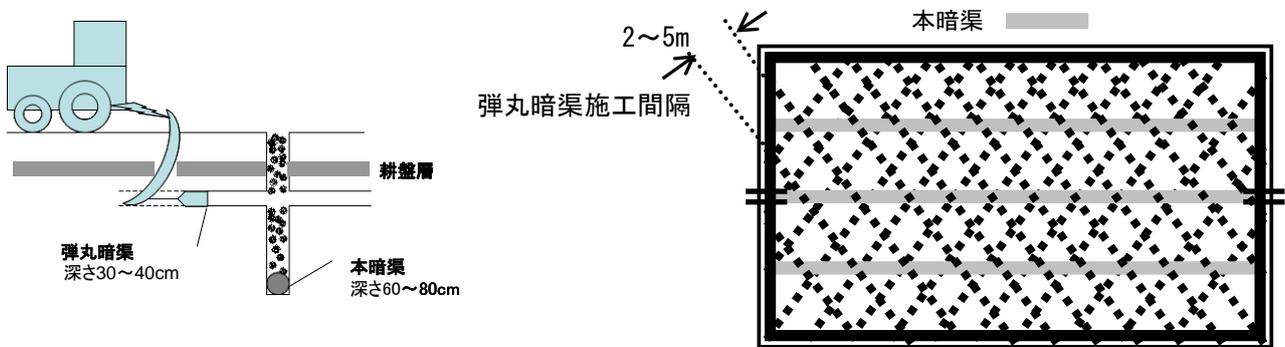
・なるべく連作にならないような圃場を選び、3～4年以上の輪作が望ましい。

(2) 圃場準備・排水対策

3月下旬～4月中旬に定植する場合は、天候が不安定なことが多いので、必ず、前年の秋に、以下の排水対策を実施しておく。

ア 弾丸暗渠（サブソイラを用いた簡易暗渠）の設置

作土層直下の耕盤層を破碎し、地下排水を向上するため、サブソイラ等で、本暗渠に対し、横方向または斜め方向に、深さ30～40cmの弾丸暗渠を2～5m間隔で設置する。



- ・額縁排水溝の水が弾丸暗渠内に流れ込まないように、額縁排水溝との連結部は、排水溝の底より深くしない。
- ・弾丸部は浅い位置から貫入させ、1～2m進んだら、弾丸部を30～40cmの深さに下げる。



生育期間中の弾丸暗渠

イ 額縁排水溝の設置

地表排水を向上するため、スクリーオーガ等で、ほ場周囲に深さ25cm以上の額縁排水溝を設置する。

排水溝の水がほ場外に排水されるよう、額縁排水溝は必ず水尻につなぐとともに、水尻は深く掘り下げる。



- 溝の深さが一定となるようにする。連結部は手直しが必要



- 水尻との連結と掘り下げ

ウ 堆肥の施用

植付け直前の堆肥の施用は、タネバエなどの土壌中で茎、根を加害する害虫の発生を引き起こす可能性が高いので、堆肥を施用する場合は、必ず前年の秋に施用する。

エ 秋耕（反転・深耕）

- ・作土層の確保、前作残渣等のすき込み・腐熟促進、雑草の発生抑制等を図るため、プラウ等で、反転・深耕する。
- ・土塊が細かくなると、春先に土壌が乾きにくくなるため、ロータリによる秋耕は行わない。



2 栽培管理

(1) 雑草処理（定植前準備）

春先は気温が低いため、耕起による除草は土中で雑草が生存し、地表に再発生するので定植7～10日前までで耕起前に必ずラウンドアップマックスロード原液200～500ml/10aを水50～100l/10aで希釈し枯殺します。散布後6時間以内に降雨があると効果が劣りますので天気予報に注意して散布します。原液の散布量が規定よりも多くなると定植後の生育に影響する可能性があるため、薬量は厳守する。



このくらい大きくなってから除草剤を散布しても手遅れ・・・(大きな枯れ株が定植作業の邪魔をします)



このくらい大きさのうちに除草剤で枯らしておきましょう

ア 播種計画の例

播種日	定植日	収穫可能時期	品種構成案	チェーンポット1穴あたり播種粒数
1/5	4/1	8/1～8/14	夏山一本太	2
1/25	4/16	8/15～8/31		2
2/11	4/23	9/1～9/14	夏山一本太：項羽一本太=5:5	2.5
2/25	5/1	9/15～9/30		2.5
3/10	5/8	10/1～10/20	夏扇4号もしくは項羽一本太：関羽一本太=5:5	3
3/20	5/10	10/21～11/20	関羽一本太	3
4/5	5/25	11/11～11/30		3

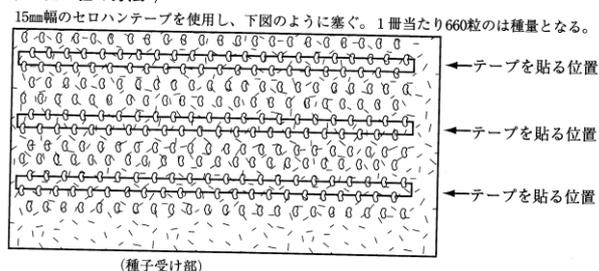
収穫遅れとならないように計画的な播種計画としてください。
夏山一本太、項羽一本太、夏扇4号、関羽一本太の順で生育が早いため、この順番で播種、定植を行う。

イ 必要な資材例 (10aあたり)

種子	チェーンポット	底敷紙	育苗箱 (水稻用)	育苗用土
コート種子 3粒/穴：49,104粒 2.5粒/穴：40,920粒 2粒/穴：32,736粒	CP303 62冊	62枚	62枚	30L詰13袋

1穴当り播種粒数：8月どり2粒/穴、9月どり2.5粒/穴、10～11月どり3粒/穴なので下図のように1穴当たり2粒播種となる部分ができるよう3粒まき用播種板にセロハンテープを張って対応する。

〈2.5粒は種の方法〉



2.5粒まきチェーンポット2粒・3粒交互まき

ウ 播種方法

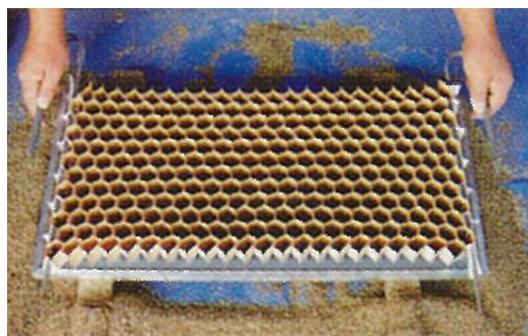
チェーンポット (CP303) と専用の播種器を用いて播種する。

以下の写真では床の上で作業しているが、作業効率向上と労働負荷軽減を図るため、作業台の上で作業する。

手順 (播種4点セットの場合)



チェーンポットの白ラベルと白ラベルの間に展開串を差し込む。



白ラベルの矢印を下にして、展開串を左右に広げて展開板にセットする。



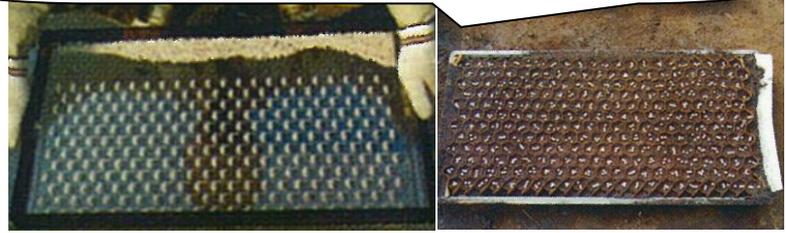
各ポットに用土が均一にしっかり詰まるよう、ブラシ等で叩く(チェーンポットの戻り防止)。



底敷紙を育苗箱に入れ、土詰めしたチェーンポットにかぶせる。



チェーンポットでは苗の選別や入替えが出来ないので、確実に各ポットに種子が入っているか、覆土前に確認する。



展開板と苗箱を重ねたままひっくり返し、展開板だけをとる。

播種器を用いて、各ポットに作型に適した播種量を播き、種子が隠れるようポットの高さまで覆土する。また、育苗箱の端にもしっかり土を詰める。

重要ポイント

覆土はペーパーポットの六角形が「見えるくらい」までとします。

*覆土が厚いと発芽ムラ、薄いと種子の浮き上がりを生じるので注意が必要です。

エ 播種直後のかん水

播種した育苗箱を網かパイプ上に育苗箱を置き、トレイを地面から浮かした状態で育苗箱1箱につき1.5～1.3ℓかん水する（育苗箱7枚に対し、10ℓ入りジョウロ1杯のかん水量です）。(基準を上回るかん水量は過湿による欠株を生じるので注意してください。また極端に少なくとも発芽ムラとなるので注意してください)

ポイント：育苗箱を地べたに置いてかん水すると気泡が地上部に発生し、種が浮き出てきたり、下部まで水が行きわたらないので注意！！



育苗箱の底を少々浮かせて、下から水が抜けるようにしてかん水します

オ 育苗器の利用

播種、かん水を終えた育苗箱を速やかに育苗機に入れ（播種後10時間以内）、地温が20～23℃になるようにセットし、電源スイッチを入れてから110～120時間（4～5日間）入庫する。地面から芽が出てくる前に搬出する。出庫作業を考慮した播種計画とします。

・念のため入庫後100時間後から7～10時間毎に土中の発芽状況を確認すると安心である。

*出庫の早すぎ、遅すぎに注意!!



育苗器へ搬入し発芽をそろえる

カ 育苗床への搬出

搬出2～3日前までにトンネル被覆し育苗床を暖めておく。

育苗床に搬出後、原則かん水は行わない*。※極端な苗箱乾燥時はかん水する。

(3) 育苗中のかん水管理

育苗器から搬出後は過湿、過乾燥にならないように注意する。特に低温期は、乾きにくいいため2～10日に一度のかん水で十分なこともある。かん水は午前中に行い、午後のかん水しない。

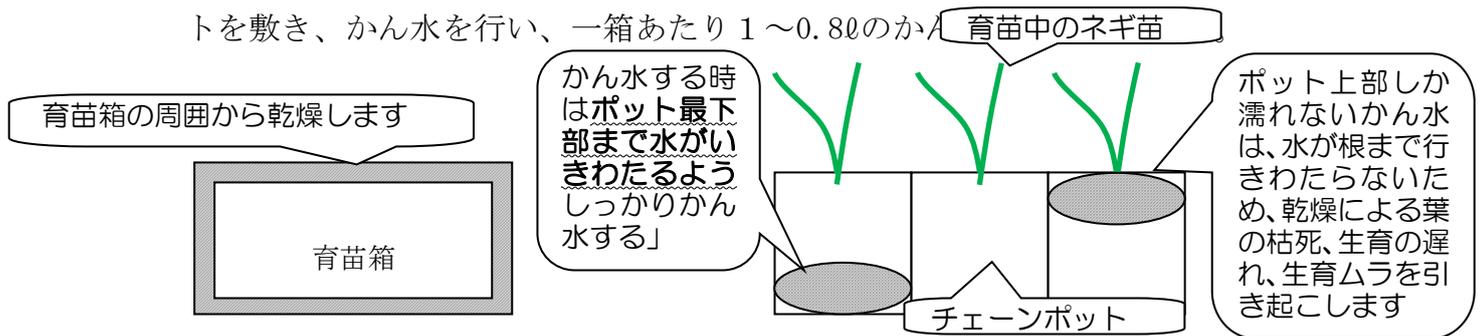
・育苗初～後期（出芽後～定植11日前）

育苗箱の周囲から乾燥してくるので、最も乾いていそうな育苗箱の周囲の湿り具合を土中に指を突き刺して確認し、内部に湿り気を感じ、さらに指が土で黒く汚れるくらいぬれていたら、前回のかん水から数日経過していてもかん水しない！！

（1～2月の育苗では5日以上かん水不要な場合もある）

また、育苗箱の周囲の湿り具合を土中に指を突き刺して確認し、指が土で汚れないくらい乾いた（さらさらパラパラ）苗箱が3枚程度あったら、他の育苗箱もある程度乾燥してきていると予想されるので、全体をかん水する。かん水量は、育苗箱の下層まで水がいきわたるようにしっかりかん水する（1回あたりのかん水量の目安：一箱あたり1～0.8ℓ、かん水直後土を指で挟むと水がしたたり落ちるくらいのかん水量）。

上部・サイドの斉一散水装置を用いてかん水する時は、空の苗箱にビニールシートを敷き、かん水を行い、一箱あたり1～0.8ℓのかん水



(4) ハウス・ハウス内ビニールトンネルの温度管理

・日中

目標温度20～25℃となるように管理する。冬期間は目標温度に達するのは困難であるがビニールハウス内にビニールトンネルを設置し、できるだけ保温しつつラブリシート、パオパオ等(不織布)の光を遮る資材は用いない。

・夜間

夜間の気温が5℃未満となる時期（1～3月）はビニールトンネルの上にラブリシート、パオパオ等の不織布を展張しておくで安心である。

4月以降はトンネル不要である。ただし、气象台から低温や霜注意報が発令された時はビニールトンネル展張しておくで安心である。

以上のような温度管理は健全生育のため望ましいですが、日中のこまめな温度管理が難しい時は、日中は光を十分当てつつ換気を行い、30℃を超えない温度管理とします。また、1～3月の夜間は必ずハウス内トンネルビニール+不織布の展張を行っておくと無難な管理となります。

(5) 育苗後半の定植に向けた準備(定植 10～7 日前)

ア 順化处理

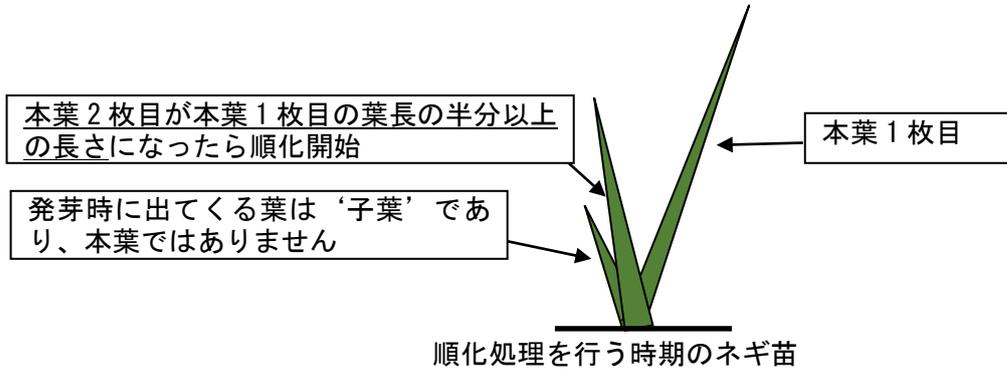
本葉 2 葉目の葉長が本葉 1 葉目の半分まで伸長してきたら順化を開始して OK

→苗の徒長抑制効果もあります。植え遅れになっても苗の老化も遅くなります。

ハウスサイドをできるだけ昼夜開放して外気に慣らしませす。

霜、低温注意報が発令されていない時：ハウスサイド昼夜全開

霜、低温注意報発令時：ハウスサイド夜間封鎖



順化開始 10 日後から定植可能となります。順化開始 10 日以降も順化を続けると、ゆっくり生育することから苗の老化を緩和する効果がありますので定植する日まで順化は続けます。

イ 追肥

播種 45 日目以降は定植するまでに、5 日おきに低濃度の液肥（「野菜の達人」の 500 倍液「水 1 ℓ に対し、肥料を 2 g 溶かす」）を苗箱一箱当たり 1 ℓ 灌注し、苗の活力維持を図ると、活着が良好となり定植後の生育が旺盛となります。

ウ 目標とする定植時の苗質(本葉 2 枚目が本葉 1 枚目と同じ長さになったら定植可)

定植間際の苗は、葉数 2.1 葉で草丈 15～20cm のガッチリした苗を目標に育苗する。育苗日数は 1 月播種で 80 日、2 月は種で 60～70 日、3 月以降のは種は 50 日で目標に達する見込み。

- ・活着の促進を図り初期生育を保つには苗の適期定植に努めましょう！！
- ・天候等の都合で定植が遅れ、定植後に葉が立たないと思われるくらい葉が長い時は、定植 7～5 日前にネギの葉を地表面から 12cm 程度になり定植後葉が立つよう剪葉します。

定植後葉が寝ていると霜害を受けやすくなるので注意しましょう

なお、定植が 5 月以降で、霜害発生の恐れのない場合は定植作業に支障がない限り、剪葉の必要はありません。

(6) 定植作業

ア 発酵鶏糞の散布

定植 10 日前までに『発酵鶏糞』を 10a あたり 200kg 全面に散布しておく。

イ 石灰散布

『マグフミン』を10aあたり140kg全面に散布する。

ウ 定植直前に耕起

晴天日が続き、畑が乾いた状態になったら、できるだけゆっくり2回以上、土塊とならないように深く耕す。

耕起した後で降雨があると地面が乾きにくくなり定植が困難となるので、**耕起後定植まで降雨のないことを天気予報で確認**後耕起します

砕土率が高いと簡易定植機「ひっぱりくん」でネギを定植した時に土でチェーンポットの上面が見えなくなり、植付け後の手直しが不要となります。**砕土率80%以上（土塊2cm以下の土の重量が80%以上）が理想です。**

この砕土率で定植すると手直して労働時間が増加すると共に、定植後の生育が悪くなり2L比率が著しく低下します。



砕土率 80%



エ 条設定

砕土率 40%

条間1.2mごとに目印を付ける。(例：等間隔でまっすぐに植え溝を掘るために、うね幅の間隔にヒモを張り、足跡を付けるなどして溝切り位置を決める)



オ 畝立て

目印に沿って、歩行型管理機でグランドレベルから10~15cm深の植え溝を掘る。

湿害回避のため、**植え付け溝は必ず額縁排水溝や横溝排水溝よりも高くなる必要。**

カ 条施肥

『なっちゃんエースもしくはあきちゃんエース』を用い、10mあたり750g植え溝に散布。

「表 全量基肥肥料の施肥例」

肥料名	適応作型(収穫時期)	施用量
なっちゃんエース (N-P-K:24-10-14)	8月上旬~ 9月中下旬どり	条施用：60~70kg/10a (N成分：14.4~16.8kg/10a)
あきちゃんエース (N-P-K:24-10-14)	9月下旬~ 11月上旬どり	

キ 殺虫剤施用

植え溝に『ダイアジノン粒剤5』 6kg/10aと『アドマイヤー1粒剤』4kg/10a

ク 苗消毒

定植直前に水やりを兼ねて、『トリフミン水和剤』200倍を1箱あたり薬液1Lをかん注する。

- ・200倍液のつくり方（10箱分）：薬剤50gを水10Lに溶かす。

ケ 定植

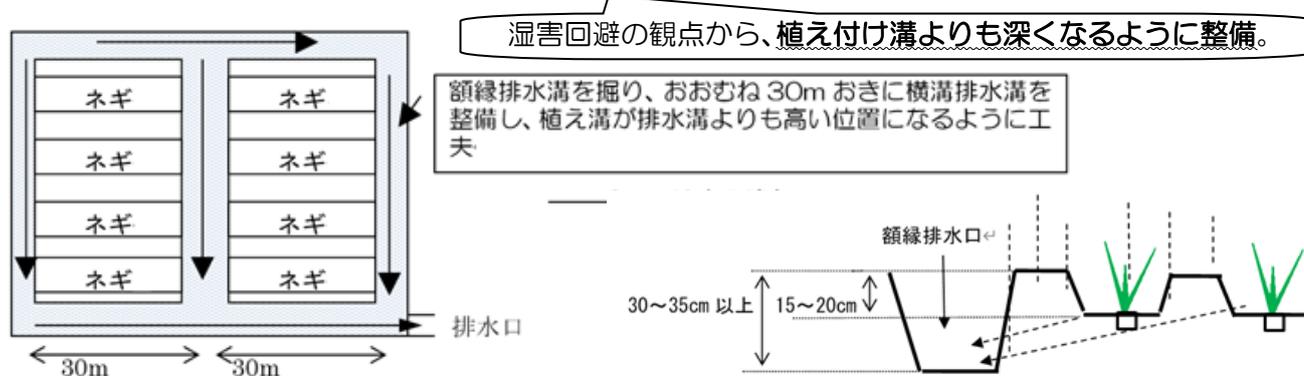
肥料と粒剤をまいた上を『ひっぱりくん』で植えていく。

なるべく定植する部分（植溝の中央部）を踏まないよう注意する。

定植後、ポットが見えている場合はポットの紙が見えなくなる程度に手直りする。

コ 額縁排水溝の設置

額縁排水溝、横溝排水溝の設置等、基幹排水溝は必ず実施しておく。



サ 定植直後の除草剤散布

定植直後（定植10日後までに）に『ゴーゴーサン乳剤』10aあたり薬量300mLを水100Lで希釈し、動力噴霧機等では場全面に散布する。

- ・畑全面に散布する。ねぎにかかってもOKだが薬害防止のため重複してかからないように注意。
- ・散布の際は、土壌処理剤対応のスズラン噴口で散布します（例：平均粒子径560 μ m(1.0MPa)。

(7) 定植以後の作業について（土寄せ、殺虫粒剤、定期防除、除草剤散布）

ア 除草、追肥、殺虫粒剤散布（定植後25日頃）

ここがポイント。大きくなると除草は困難になるので注意

畝間に細かい雑草が生え始める時期なので雑草の双葉が展開揃いとなる小さいうちに『プリグロックスL』（10aあたり水100L+薬600~1000mL）もしくは『バスタ液剤』（10aあたり水100L+薬300~500mL）で除草しておく。一人は飛散防止カバーを装着した背負い型噴霧器を用い、風のない時間帯（早朝等）にねぎにかからぬように散布しましょう。

不安のある方は、飛散防止用の板を利用しましょう。



飛散防止カバーを装着した噴霧器



定植20~30日後に雑草の双葉が展開揃いとなる

- 追肥①：『やさい磷加安 S540』を10mに300gを株元に施用する。
- 粒剤①：『スタークル粒剤』を6kg/10aを植え溝に施用する。
- 除草剤①：除草・追肥・殺虫粒剤散布後、『トレファノサイド乳剤』10aあたり薬300mlを水100Lに希釈し動力噴霧器で全面に散布する。

(畑全面に散布する。ねぎにかかってもOKだが薬害防止のため重複してかからないように注意)

イ 1回目の土寄せ（削り込み）、散布剤定期防除、除草（定植後50日頃）

葉鞘径が10mmを確保したのを確認してから1回目の土寄せ（削り込み）を行う。

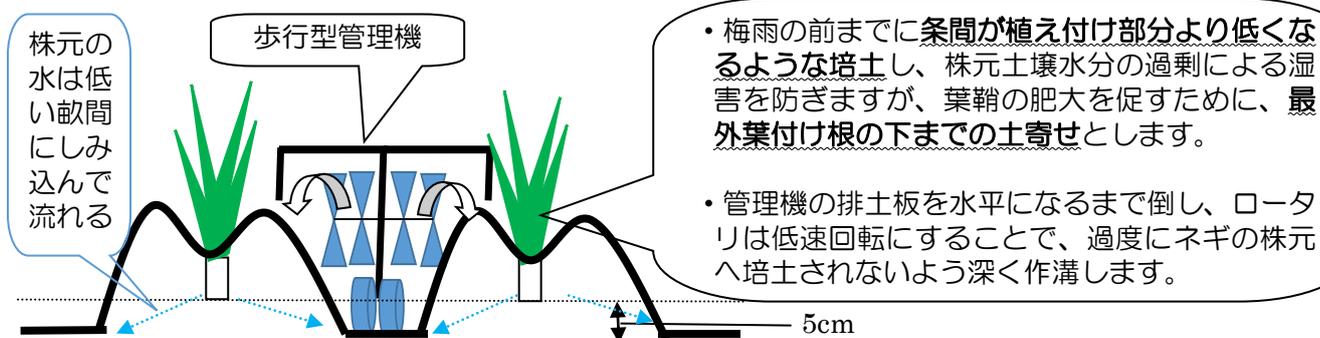
- 散布剤①：土寄せ前に『アリエッティ水和剤』800倍を10aあたり2000散布（展着剤加用）*スリップス、ハモグリバエなどの虫害の目立つ時は『アグリメック』500～1000倍を混用します。
- 粒剤②：土寄せ前に『ダントツ粒剤』を6kg/10a、『オリゼメート粒剤』を6kg/10aを植え溝に施用する。
- 除草剤②：土寄せ後、『トレファノサイド乳剤』10aあたり薬300mlを水100Lに希釈し動力噴霧器で全面に散布する。

(畑全面に散布する。ねぎにかかってもOKだが薬害防止のため重複してかからないように注意)

***ポイント：葉鞘径が10mmに達していなかったら防除、粒剤散布のみ行き、土寄せ、除草剤散布は葉鞘径が10mmに達してから行う。**



「重点ポイント」（1もしくは2回目の培土時で梅雨前までに実施します）



ウ 散布剤定期防除（定植後65日頃）

- 散布剤②：4月～7月中旬散布の場合：『ダコニール1000』1000倍液を10aあたり2000散布（展着剤加用）*スリップス、ハモグリバエなどの虫害の目立つ時は『リーフガード顆粒水和剤』1500倍を混用します。
- 7月下旬～8月散布の場合：『Zボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布（展着剤加用）*スリップス、ハモグリバエなどの虫害の目立つ時は『リーフガード顆粒水和剤』1500倍を混用します。

エ 2回目の土寄せ、散布剤定期防除、除草（定植後75日頃）

葉鞘の最外葉の付け根の下までの土寄せにとどめる。(過度の土寄せは、病害の促進を招くとともに、葉鞘の太りを阻害するので注意)

○散布剤③：4月～7月中旬散布の場合：土寄せ前に『リドミルゴールドMZ』1000倍を10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『アグリメック』500～1000倍を混用します。

7月下旬～8月散布の場合：『Z ボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『アグリメック』500～1000倍を混用します。

○粒剤③：土寄せ前に『スタークル粒剤』を6kg/10a、『オリゼメート粒剤』を6kg/10aを植え溝に施用する。

○除草剤③：土寄せ後、『ロックス水和剤』10aあたり薬150gを水1000lに希釈し動力噴霧器で全面に散布する。

(畑全面に散布する。ねぎにかかってもOKだが薬害防止のため重複してかからないように注意)

オ 散布剤定期防除 (定植後 85 日頃)

○散布剤④：4月～7月中旬散布の場合：『ダコニール1000』1000倍液を10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『リーフガード顆粒水和剤』1500倍を混用します。

7月下旬～8月散布の場合：『Z ボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『リーフガード顆粒水和剤』1500倍を混用します。

カ 3回目の土寄せ (定植後 95 日頃)

葉鞘の最外葉の付け根の下までの土寄せにとどめる。(過度の土寄せは、病害の促進を招くとともに、葉鞘の太りを阻害するので注意)

○散布剤⑤：4月～7月中旬、9～11月散布の場合：土寄せ前に『アフェットフロアブル』2000倍を、10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『アフーム乳剤』1000倍を混用。

7月下旬～8月散布の場合：『Z ボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布(展着剤加用) *スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『アフーム乳剤』1000倍を混用します。

○粒剤④：土寄せ前に『ダントツ粒剤』を6kg/10aを植え溝に施用する。

キ 散布剤定期防除（定植後105日頃）

○散布剤⑥：4月～7月中旬、9～11月散布の場合：『ダコニール1000』1000倍液を10aあたり2000散布（展着剤加用）*虫害（スリップス、ハモグリバエ）がある時は『ベネビアOD』2000倍を混用します。

7月下旬～8月散布の場合：『Zボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布（展着剤加用）*スリップス、ハモグリバエなどの虫害が目立つ時は『ベネビアOD』2000倍を混用します。

ク 最終土寄せ（定植後115～125日頃）

葉鞘長30cm以上を確認後、早朝の地温が低い時間帯に根元から33cm土寄せする。

○散布剤⑦：土寄せ前に『Zボルドー水和剤』500倍に薬害軽減剤『クレフノン』を200倍になるように混用し、10aあたり2000散布（展着剤加用）スリップス、ハモグリバエ、ヨトウムシ類などの虫害が懸念される時は『ディアナSC』2500倍を混用する。

○粒剤⑤：土寄せ前に『ベストガード粒剤』6kg/10aを植え溝に施用する。

（8）収穫

最終土寄せ後、軟白必要期間（右表）を経過した後、試し掘りを行い、完全に軟白していることを確認してから収穫を開始する。（軟白長30cm以上）収穫遅れは棒ねぎや襟首の緩みにつながるため計画的に収穫する。

表 出荷時期別の軟白必要期間と収穫適期幅

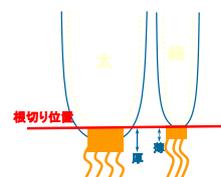
出荷時期	軟白必要期間	収穫適期幅
8月	収穫15日前	10日間
9月	20	10
10月	30	10～15
11月～	35	20

- 雨天時や雨後の作業は、機械が傾き、収穫ロスが多くなる。また、泥付着や葉折れがしやすく、軟腐病に感染する危険性が高まるため、収穫作業は、なるべく晴天日に行う。
- 高温期は、必ず品温の低い早朝（気温30℃以下）に収穫する。
- 収穫する量は、1日に調整可能な量を掘り取る。
- 高温期は、掘り取り後、できる限り速やかに作業場へ搬入する。
- 包装ネット（商品名：マキマキねぎ用）等で株元を揃えて一定量を包む。この際、重過ぎないように運びやすい重さ（40～50本）とする。
- 11月下旬以降は、天候不良により収穫作業が行えない日が多くなるため、11月中旬までに相当量の収穫が終えるような栽培計画を立てておく。
- 軽トラックで運搬するときは、葉が潰れないように立てて積み込む（右図参照）。



（9）調製

- 作業場への搬入は、直射日光が当たらず、気温が低く、風雨の当



たらない場所に置く。

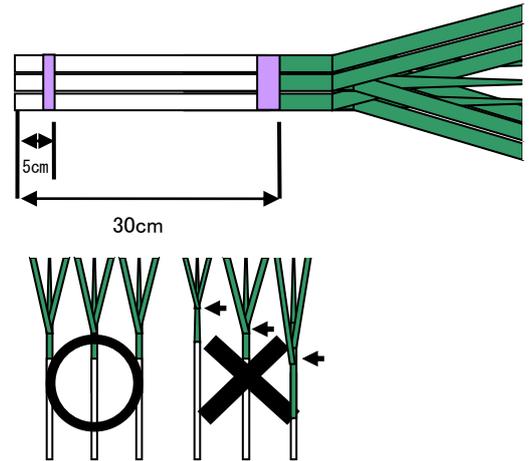
- ・ 全長 58cm に切り揃える。
- ・ 葉は 3 枚残す。残す 3 枚の葉を傷めないように丁寧に作業する。特に、低温期は、葉が折れやすいので注意する。
- ・ 9 月までは根を 1～2mm 残し（軟腐病対策）、10 月以降は、盤茎部で切る。
- ・ 但し、切り過ぎると、芯が伸び出し、品質低下するため、注意する。



(10) 結束

- ・ 規格別の規定本数を、入り目を含めて 315 g 以上とし、根元からテープを含んで 5 cm と 30cm になるように結束機を設定し、結束する。
- ・ テープの結束位置
 下テープ → 根元からテープ上の長さが 5 cm
 上テープ → 根元からテープ上の長さが 30cm
- ・ 葉の分岐点の位置が同じねぎを選んで結束する。
- ・ 太さが同じくらいのを揃えて結束する。

※ 315 g に合わせるため、1 本だけ細いものを混ぜて結束するのは不可。



【富山県標準出荷規格】

品位区分	A			B			
		1. 色沢が良好であるもの。 2. 萎凋の徴候のないもの。 3. 腐敗又は変質していないもの。 4. 病害、虫害又は傷害のないもの。 (富山白ねぎ品質検査基準参照) 5. 土、砂及び異物が付着していないもの。 6. 曲がりのないもの。 7. 軟白部が 30cm 以上のもの。	Aに次ぐもので、 1. 軟白部が 25cm 以上で 30cm 未満のもの。 2. 曲がりが 3cm 以内のもの。				
大小区分	封函テープの色	太さ	1 把の本数	調整	包装	量目	
	2L	黄	2.0~2.3cm 未満	2 本	1. 粗皮をとり、根はつけ根より切る。 2. 青葉は 3 枚とする。 3. 長さ 58cm となるよう葉切りする。 4. 1 把 315g として太さを揃える。 5. 結束は根元を揃えて 2 か所テープをかける。又は FG フィルム入りとする。	段ボール箱	3.0kg (10 把入) 入目 5%
	L	紫	1.4~2.0 "	3 "			
	L4	水色		4 "			
	M	赤	1.0~1.4 "	5~6 "			
S	緑	0.7~1.0 "	7~8 "				